

空き家そのものの価値を活かし、地域住民の継続的な利用を目的とした利活用プランの模索

事業の目的

- 地域や空き家所有者に向けた空き家管理、空き家利活用の意識向上

活動エリア

- 奈良県橿原市八木町

実施事業の概要

- 事業①: モデル物件の活用方法の模索

- モデル物件の建物構造調査

- 地域コミュニティ拠点としての活用提案

- 地元住民を対象とした空き家活用ワークショップ(家財道具整理、清掃、モデル物件内での活用プラン検討、体験利活用)

事業実施で得た成果

- 事業①関係: 建物の良さを活かした地域コミュニティ拠点としての具体的な活用方法の明確化

- ワークショップ参加者のべ26名、利活用社会実験参加者のべ98名、利活用物件数: 用途変更による利活用検討中1件

事業実施で得た課題

- 所有者が高齢者の場合は理解を示されても行動が伴わず、家族や近隣の住民も巻き込んだ意識向上が必要
- 地域コミュニティ拠点として活用する場合に、現実的、継続的な利用を想定し、地域住民や市町村を巻き込む必要

構成事業者名及び役割分担(構成事業者名: 担っている役割)

- NPO法人八木まちづくりネットワーク: 本事業の企画・進捗管理・収支管理、改修提案、地元と要望との調整・行政との協議
- (株)アーバンリバースラボ: 物件の流通支援・活用事業者の斡旋支援
- 八木ゲストハウス笑顔、大和町家バンクネットワーク協議会: 情報の発信・活用事業者の斡旋支援
- 関西大学環境都市工学部建築学科住環境デザイン研究室: 地元住民及び高校生等を対象に社会実験

モデル物件（外観）



建物構造調査(左)、清掃ワークショップ(右)



活用プランワークショップでの意見まとめ

利活用社会実験（囲碁会場）

